

Europe Trends

発表日:2021年1月20日(水)

コンテ首相の続投が決定

～改革前進、それとも改革停滞?～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 田中 理 (TEL:03-5221-4527)

◇ 19日の下院での内閣信任投票は、非与党議員の一部が政権支持に回り、連立を離脱した小政党が投票を棄権したため、コンテ首相の続投が決まった。年内の解散・総選挙の可能性は遠退いたが、政権の議会基盤は弱く、政策決定の度に議会審議が紛糾しそうだ。重要法案審議で議会の過半数確保が難しい場合、改めて政権の存続が危ぶまれる恐れがある。

18日付けレポート「[新旧首相の主導権争いはコンテ首相に軍配](#)」で指摘した通り、コンテ首相は18日に下院で、19日に上院で内閣信任投票に臨み、何れも信任された。レンツィ元首相が率いる小政党イタリア・ビバの連立離脱で、政権を公式に支えるのは、五つ星運動、民主党、自由と平等の3党となる。与党3党での上院（定数315+終身議員6）の過半数確保が難しくなったが、与党以外から10名超の議員が信任に回ったほか、今回の政変の首謀者であるレンツィ元首相を含め、イタリア・ビバの議員の多くが投票を棄権ないし欠席した。日本時間の20日朝に判明した上院の投票では、156対140の単純多数で内閣が信任され（内閣信任投票では161の絶対多数は必要ない）、コンテ首相の続投が決まった。イタリア・ビバが不信任票を投じればコンテ首相を退陣に追い込むこともできたが（その場合もすぐに議会の解散・総選挙となるとは限らない）、レンツィ元首相のスタンドプレイに対する国民の風当たりも厳しく、今後の政策決定での影響力の確保を優先した。与党内からはイタリア・ビバの連立再参加に否定的な声が多く、今回政権支持に回った非与党議員が会派や政党を結成し、公式に政権支持を表明しない限り、コンテ首相は非多数派政権を率いることになる。

議会の解散権を持つマッタレラ大統領の任期は来年2月。任期終了までの半年間は議会の解散権を行使することができない。今回の政変を乗り切ったことで、右派ポピュリストの政権奪取につながる解散・総選挙が年内に行われる可能性は遠退いた。ただ、内閣信任投票で政権支持に回った非与党議員や投票を棄権したイタリア・ビバの議員が、今後の政権運営に継続的に協力するとは限らない。連立を離脱したイタリア・ビバは、コロナ危機対応での追加経済対策に賛成する意向を表明している一方、連立離脱の引き金となった復興計画の具体策などでは政権の方針に反対する公算が大きい。秋の予算編成（予算関連法案の成立には議会の絶対過半数が必要となる）や選挙法改正など、政治的にセンシティブな政策決定の度に議会審議が紛糾しそうだ。コンテ首相は小政党に有利な選挙法改正を進めることで、政権への支持を固めようとしている。成長促進型の経済政策や欧州安定メカニズム（ESM）の利用を求めるイタリア・ビバがキャスティング・ボートを握る形で構造改革や財政安定につながるか、逆に政党間の主導権争いで政策停滞につながるかは不透明だ。マッタレラ大統領は安定政権の樹立を求めており、重要法案審議で議会の過半数確保が難しい場合、改めて政権の存続が危ぶまれる恐れもある。

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。